

## 保健・医療

### 第70回国連総会サイドイベント「UHCへの道筋」の開催

平成27年9月29日



(写真提供：内閣広報室)






(写真提供：内閣広報室)

1 9月28日(月曜日)午前10時30分(日本時間28日午後11時30分)から約100分間、ニューヨークの国連本部会議室において、保健サイドイベント「UHCへの道筋～ポスト2015期の開発における公平な国際保健と人間の安全保障の推進～」を、我が国主催(共催:リベリア、セネガル、タイ、フランス、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)、WHO、世界銀行)により実施しました。

本サイドイベントでは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」における保健システム強化、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)実現の重要性が強調され、出席者一同が、保健分野に対する支持を表明しました。

安倍総理は冒頭セッションで、(1)公衆衛生危機に対応するためのグローバル・ヘルス・ガバナンスの強化、(2)ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成が国際保健分野における2つの大きな課題であり、日本としても9月11日に健康・医療戦略推進本部で決定した「[平和と健康のための基本方針](#)」を踏まえ、日本が有する経験・知見を活用し、これら課題に取り組んでいく旨述べました。また上記(1)、(2)において共通の鍵となる保健システム強化のためには国際社会がアライアンスを組んで取り組む必要があると述べ、日本としても関係する国際的な議論において主導的な役割を果たしていく考えを示しました。

[安倍総理ステートメント\(日本語\(PDF\)\)](#)  [英語\(PDF\)](#)   
[配布資料\(PDF\)](#) 

2 第1部では、UHCは途上国におけるヘルス・リスク縮減をどのように実現できるか、また、UHC推進におけるドナーの役割に焦点をあて、サーリーフ・リベリア大統領、プラユット・タイ首相、コル=セック・セネガル保健大臣、チャンWHO事務局長、オシヨテメインUNFPA事務局長、デコット外務省グローバルイノベーション・開発・パートナーシップ総局長が発言を行いました。このセッションを通じ、UHCの推進によって、エボラ出血熱の蔓延といったヘルス・リスクの低減や、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の達成に繋がる役割が強調されました。

3 第2部では、三大感染症や母子保健から非感染性疾患までを含む様々な保健課題への取組に際するメカニズムとしてのUHCをテーマとして、ニェンスワ・リベリア保健副大臣、田中JICA理事長、ホーヴェン独経済協力開発省局長、ハンセン世銀副総裁、マルティネス=ソリマンUNDP政策プログラム支援局長、ンジャイUNICEF次長、デュガン・プロダクト(REDF)CEO、メルンガGFANメンバー(市民社会)がパネリストとして議論が行われました。ここでは、UHCや保健システム強化に関する取組や、それらが人々に与える影響について、各国・各機関の活動と絡めた言及が行われました。

4 最後にダブル・グローバルファンド事務局長が総括発言を行い、安倍総理の保健分野に対するコミットメントと今時イベント開催に対する謝意が表明され、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジは、健康で教育を受けた人々なくして貧困や環境問題等を解決することはできないという観点からもSDGsを下支えするものであり、人間の安全保障の実現に欠かせないと述べ、12月に日本で開催されるグローバルファンド増資準備会合や、来年G7伊勢志摩サミット及びTICADが非常に重要な意味を有すると述べました。

## 日・グローバルファンド共催保健サイドイベント

安倍総理スピーチ（9月28日（月）於：国連本部内CR4）

本日は、日本とグローバルファンド共催サイドイベント「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジへの道筋」に御出席頂き、心より感謝申し上げます。

私は、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の下、より一層、世界の平和と繁栄に貢献していくことを重視しています。そして、一人ひとりに焦点を当てた「人間の安全保障」の考え方に立ち、保健をはじめとする世界規模の課題の解決に貢献していきたいと考えています。日本は、そのような貢献を行うにふさわしい経験や知見、高度な医療技術、研究開発能力、そして保健人材を有しています。

これまでも、日本は、保健分野で主要な役割を果たしてきました。例えば、2000年のG8九州・沖縄サミットでは、感染症対策を初めて議題として取り上げました。その成果は、本日の共催者であるグローバルファンドの創設につながりました。同基金がエイズ・結核・マラリア対策に大きく貢献してきたのは皆様御存じのとおりです。そのサミット開催地であった沖縄を、国際医療の拠点とする計画もあります。2008年のG8北海道洞爺湖サミットでは、保健システム強化への取組みに合意を得ました。

そして、2016年、日本はG7伊勢志摩サミット及びG7神戸保健大臣会合を開催します。G7議長国として、日本は、保健分野で引き続き積極的に貢献してまいります。また、アフリカで初めて開催される来年のアフリカ開発会議においても保健は重要な分野です。

国際保健の分野では、現在二つの大きな課題に直面しています。一つ目は、エボラ出血熱の感染拡大の反省から、公衆衛生危機に対応するためのグローバル・ヘルス・ガバナンスの強化です。二つ目は、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」でも掲げられる、全ての人々が必要なときに基礎的な保健サービスを負担可能な費用で受けることのできるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成です。

この2つの課題は密接に関連しています。今般策定した日本の国際保健の基本方針『平和と健康のための基本方針』には、これら課題への取組を盛り込んだところ です。

公衆衛生危機対応については、初動対応の遅れが指摘されましたが、国際社会の対応能力を改善するような、グローバル・ヘルス・ガバナンスの強化についても検討を進めることが重要と考えています。潘基文事務総長の下に設置されたハイレベルパネルの議論に期待しつつ、日本としても、あり得べきグローバル・ヘルス・ガバナンスの姿を描くべく、議論に貢献していく考えです。特に、公衆衛生危機時に現地政府、国際機関、ドナー国、民間団体がどのような役割分担をし、現場に迅速かつ確実に支援を届けるための明確な方針が必要です。

平時においても、多様な保健課題に対応しうるシステムを構築する必要があります。母子保健や栄養不足などの従来の課題に加え、生活習慣病や高齢化なども途上国が抱える新たな課題となりつつあります。このような多様な保健課題に対応するためには、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを実現することが求められます。

こうした公衆衛生危機の対応やユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現にお

いて共通の鍵となるのは、保健システムの強化です。所得水準や保健制度の差異、特定の疾病の存在など途上国が置かれている状況は様々であり、強靱で持続的かつ包摂的な保健システムをテーラーメイドで構築する必要があります。この実現のためには、途上国自身も含め、多大な資金、人材の動員が不可欠と考えています。

このため、WHO、グローバルファンド、世界銀行などの国際機関、ドナー国、民間団体が各々の知見や資金を持ち寄ること、そして、保健システムの構築を図ろうとしている途上国を支援する枠組みを築くことが必要であると考えます。本日のイベントが、保健システム強化を通じたユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成のための、将来のアライアンスに向けた一歩となることを心より期待し、日本としても、国際的な議論に主導的な役割を果たしていきたいと思えます。

御清聴ありがとうございました。

## Basic Design for Peace and Health ( Global Health Cooperation )

### 1. Establish resilient global health governance able to respond to public health crises and natural disasters

- Establish an international support system capable of promptly responding to emergencies:

(Strengthen cooperation and collaboration with WHO, World Bank, UN specialized agencies and bilateral donor countries and institutions; strengthen support toward the implementation of International Health Regulations (IHR)) → The report by the United Nations High-level Panel on Global Response to Health Crises, and other inputs should also be taken into account

- Contribute to the comprehensive response to infectious diseases

(Tackle infectious diseases by strengthening cooperation with the Global Fund, Gavi, GHIT\* etc, as well as through bilateral assistance such as the provision of medical devices and human resources development)

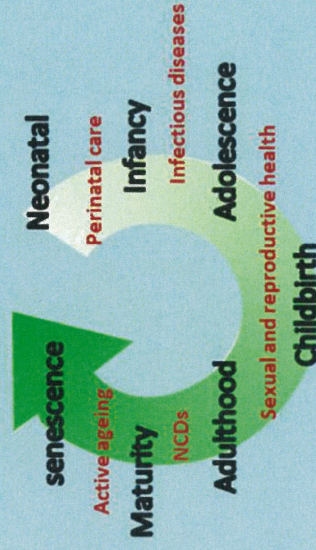
\* GHIT: Global Health Innovative Technology Fund



### 2. Seamless utilization of essential health and medical services; promotion of UHC throughout lifecycle

- Promote UHC throughout the human lifecycle

Nutritional improvement, maternal and child health, sexual and reproductive health, countermeasures against infectious diseases, measures against non-communicable diseases and medical support for the elderly.



### 3. Utilise Japanese expertise, experience, medical products and technologies